

- 問1 三重県の志摩半島や東北地方の三陸海岸南部には、山地が沈み込んでできた複雑に入り組んだ海岸線が見られます。このような地形を利用して行われる、真珠やカキ、ワカメなどを人工的に育てる産業の名称と、この地形がその産業に適している理由の組み合わせとして、最も適切なものを選びなさい。（2024年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 産業名は遠洋漁業であり、水深が深く大型の漁船が直接岸壁に停泊し、大量の魚を荷揚げできるため適している。 | 2. 産業名は施設園芸であり、入り江によって冷たい海風が遮られ、冬でも温暖な気候が保たれるため適している。 | 3. 産業名は養殖業であり、入り組んだ湾が外洋の激しい波を遮り、海面が穏やかに保たれるため適している。 | 4. 産業名は栽培漁業であり、海岸線が複雑なことで潮の流れが速くなり、魚の身が引き締まるため適している。 |
|--|---|---|--|
- 問2 福岡市から鹿児島方面へ移動する際、所要時間が4時間半以上かかる一方で、運賃が5,000円強と他の手段に比べて最も安く抑えられる交通手段はどれですか。（2016年 山口県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|--------|---------|--------|
| 1. 高速バス | 2. 飛行機 | 3. フェリー | 4. 新幹線 |
|---------|--------|---------|--------|
- 問3 東北地方の太平洋側では、夏に「やませ」と呼ばれる冷たく湿った北東の風が吹き、これが農作物の生育に大きな影響を与えることがあります。1993年（平成5年）にこの風などの影響で米の収穫量が激減した際、日本政府が行った対応として正しいものを選びなさい。（2022年 愛媛県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| 1. 国内の在庫を調整するため、米の備蓄制度を廃止した | 2. 収穫量を確保するため、全国の農家に二期作を義務付けた | 3. パン食を推奨するため、アメリカ産の小麦の関税を撤廃した | 4. 食料不足を解消するため、タイなどから米を緊急輸入した |
|-----------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
- 問4 現代日本の交通網において、道路網の整備や自家用車の普及、トラック輸送の拡大により、鉄道に代わって旅客輸送量と貨物輸送量の両面で最大のシェアを占めるようになった交通手段を何とといいますか。（2017年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|----------|-------------|-------------|
| 1. 船舶による輸送 | 2. 自動車輸送 | 3. 航空機による輸送 | 4. 新幹線による輸送 |
|------------|----------|-------------|-------------|
- 問5 高度経済成長期における日本の工業生産において、特定の工業拠点の「生産量」と「全国シェア」の関係性について述べた以下の文のうち、正しいものはどれですか。（2020年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 生産シェアが低下している拠点は、例外なくその製品の生産量そのものが減少していることを意味する。 | 2. 鉄鋼業などの重化学工業においては、内陸部への工場移転が進んだため、沿岸部の拠点の生産量とシェアは一貫して減少した。 | 3. 全国的な工業生産の拡大局面では、拠点の生産量が増加していても、全体の成長速度が速ければシェアが低下することがある。 | 4. 高度経済成長期には、すべての工業拠点で生産量と全国シェアが比例して上昇し続ける現象が起きた。 |
|--|--|--|---|
- 問6 国産レモンの市場流通において、国内の取扱数量が年間で最低水準となる一方で、取引価格が1kgあたり約960円という年間最高値に達する6月から8月ごろを狙って、生産者が貯蔵しておいたレモンを出荷する理由として最も適切なものはどれですか。（2020年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------------------------------|--|---|---------------------------------------|
| 1. 市場の供給量が減る時期に合わせて高値で出荷し、収益を上げるため | 2. 夏場は品質の劣化が早いので、貯蔵せず収穫後すぐに出荷して損失を防ぐため | 3. 海外産の輸入量が増える時期に對抗し、あえて価格を大幅に下げてシェアを拡大するため | 4. 豊作で市場にレモンが溢れる時期に、安値で大量に販売して利益を得るため |
|------------------------------------|--|---|---------------------------------------|
- 問7 1970年代には天然ゴムや魚介類が中心であったタイから日本への輸入品目について、2018年の統計で最も大きな割合を占めるようになり、タイの工業化を象徴している品目は何ですか。（2022年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. 原油および天然ガス | 2. 鉄鋼および非鉄金属 | 3. 機械類や自動車部品 | 4. 衣類および繊維製品 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
- 問8 各国の貿易品目の構成割合を調べると、南アメリカのブラジルやオセアニアのオーストラリアでは共通の鉱産資源が輸出の上位にあり、北アメリカのカナダや東南アジアのマレーシアでは共通の工業製品が上位を占めています。これらの国々の輸出傾向について正しく説明しているものはどれですか。（2021年 宮崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. ブラジルとオーストラリアは鉄鉱石の割合が高く、カナダとマレーシアは機械類の割合が高い。 | 2. ブラジルとオーストラリアは石油の割合が高く、カナダとマレーシアは食料品の割合が高い。 | 3. ブラジルとオーストラリアは石炭の割合が高く、カナダとマレーシアは木材の割合が高い。 | 4. ブラジルとオーストラリアは小麦の割合が高く、カナダとマレーシアは繊維製品の割合が高い。 |
|--|---|--|--|
- 問9 かつて九州地方が「シリコンアイランド」、東北地方が「シリコンロード」と呼ばれたように、これらの地域には集積回路（IC）の工場が多く進出しました。これらの地域に工場が建設された背景として、適切な説明はどれですか。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 原料となる鉱物資源が豊富に埋蔵されており、現地で採掘と加工を同時にこなしたから。 | 2. 広大な土地と安価な労働力に加え、製造に不可欠な大量の海水を確保できたから。 | 3. 製品が軽量で高価なため、空港や高速道路を利用した迅速な輸送が期待できたから。 | 4. 電力消費量が極めて多いため、地方にある大規模な水力発電所からの送電が容易だったから。 |
|---|--|---|---|
- 問10 ある果実の生産状況をまとめた資料において、山梨県が圧倒的な収穫量を誇り、全国の約4分の1近くを占めていることが示されています。この果実が山梨県の盆地の縁などで多く栽培されている理由として、地理的な背景から最も適切な説明を選びなさい。（2023年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------|-----------------------------|---|---------------------------------|
| 1. 夏の降水量が非常に多く、潤潤な気候が栽培に適しているため | 2. 低湿地で保水力が高い土壌が、果実の成長を促すため | 3. 平坦な広大な土地により、大型機械を導入した効率的な生産が可能になったため | 4. 傾斜地や扇状地は水はけが良く、日照時間が確保しやすいため |
|---------------------------------|-----------------------------|---|---------------------------------|
- 問11 日本の製造業は多くの町工場や中小工場によって支えられている。製造業全体の「事業所数」のうち、中小企業が占める割合として最も適切なものはどれか。（2017年 北海道公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 全体の約99% | 2. 全体の約30% | 3. 全体の約70% | 4. 全体の約50% |
|------------|------------|------------|------------|
- 問12 日本国内における国民1人当たりの米の年間消費量は、1980年の約79キログラムから2020年には約51キログラムへと大幅に減少しています。こうした国内市場の変化に対応するために行われている、日本産米の輸出促進の背景として最も適切なものはどれですか。（2024年 新潟県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 海外諸国で米の生産が困難になり、日本産の安価な米に対する国際的な需要が急激に高まったため。 | 2. 国内の米の生産量が消費量を大きく上回って急増したため、過剰な在庫を処分する必要が生じたため。 | 3. 政府が外国産の農作物の輸入を全面的に禁止したことで、日本産米を海外へ送る余裕が生まれたため | 4. 世界的な日本食ブームを追い風に、安全で高品質な日本産米が海外で高く評価されているため。 |
|--|---|--|--|